

(2) 「中小企業から見た地域における中小企業金融の実情等について」のヒアリング結果概要

- 中小企業から見た地域における中小企業金融の実情等について以下の8項目を聴取しました。

- ① 融資姿勢に関するもの
- ② 担保・保証に関するもの
- ③ 経営指導・創業再生支援に関するもの
- ④ 融資の際の説明態勢に関するもの
- ⑤ 金融機関の資質・能力に関するもの
- ⑥ 融資の際の審査期間に関するもの
- ⑦ 金利に関するもの
- ⑧ その他

- 各項目に寄せられた主な意見は以下のとおりです。

① 融資姿勢

- ・ 貸し渋り・貸し剥がしといった声は聞かれず、担保・保証に過度に依存しているといった声も聞かれない(全地域)。
- ・ 新規融資が増えている。担保・保証に過度に依存しない融資を全面的に押し出しており、従来とは違うと感じる。商工会議所等又は税理士会と提携したビジネスローンにも積極的に対応している(全地域)。
- ・ ここ数年で企業の将来性や経営者の資質に着目した融資へのシフトが進んでいると感じられる(全地域)。
- ・ リレバンの浸透もあり、各行とも、融資に積極的になっている。また、保証協会の制度(スプレッド保証制度等)拡充や保証人徴求要件の緩和等もあり、前向きな対応が見られる(全地域)。
- ・ 私募債の引受など資金供給方法も多様化している(全地域)。
- ・ 企業業績により融資姿勢は二極化している(全地域)。

② 担保・保証

- ・ビジネスローン等において、無担保・無保証人融資の商品が多くなってきた(全地域)。
- ・以前ほど担保・保証を重視しておらず、経営者の意欲・資質、企業の業績・成長性に着目する姿勢になっている(全地域)。
- ・担保が無いと話が前に進まないというケースもあるが、担保価値は適正に評価されている(関東、東海)。
- ・相変わらず、保証協会付きでないに対応してくれない傾向があり、債権保全を重視している(全地域)。
- ・税理士会提携ローンに積極的な金融機関もあるが、資金繰りの厳しい会社には、依然として厳しい担保要求が見られる(全地域)。

③ 経営指導・創業再生支援

- ・各金融機関とも貸出先の確保・融資拡大のため既存取引企業の経営体力を強化しようとする姿勢が見られるなど、経営指導については強化されつつある(全地域)。
- ・各種セミナー、異業種交流会やビジネスマッチングに取り組んでいることは評価できる(全地域)。
- ・経営支援の専担部署を立ち上げ、経営指導やビジネスマッチング業務に積極的に取り組んでいるが、事業再生については、取上げ条件のハードルが高く実を結ぶケースは少ない(全地域)。
- ・経営指導に当たる本部のスタッフが現場である支店と接触できていないほか、職員の少ない金融機関では、指導支援、創業再生支援にまで踏み込む体制が整っていない(北海道、関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州)。

④ 融資の際の説明態勢

- ・説明が不十分だという話は今はほとんど聞かない(全地域)。
- ・細かく丁寧に説明をされているようで、トラブルも少ない(全地域)。
- ・金融機関の中には制度融資のパンフレットを独自に作成し、顧客理解の一助としている例もある(東北、関東、中国、九州、福岡、沖縄)。
- ・金融機関の個々の体質や、窓口・渉外担当の資質に差異がある(関東、東海、福岡)。
- ・巡回訪問体制が整備されておらず、こちらから尋ねないと説明がない。また、優良な先へは親切であるが、それ以外の先には親身な説明をしていない(中国、

福岡)。

- ・融資の制度や流れを説明していない(全地域)。

⑤ 金融機関の資質・能力

- ・目利き研修や資格取得に組織として積極的に取り組んでいるなど、相対的に向上しており不満は聞かれない(全地域)。
- ・経営者の資質や企業の技術力等に着目しようとする姿勢が感じられ、目利き能力の向上に努めている(全地域)。
- ・成果主義に傾倒し、顧客である経営者はなおざりにされている印象。各金融機関が掲げる社会貢献・地域貢献については、形ばかりではなく実のある実績を残せるよう、スタッフに余裕を持たせて取り組んでもらいたい(関東、東海、近畿)。

⑥ 融資の際の審査期間

- ・金融機関はスピード融資に努めている(全地域)。
- ・以前は、さみだれ式に書類の提出を求められたが、現在はなくなり、処理はスピーディーになった(北海道、東北、関東、中国、九州、福岡、沖縄)。
- ・企業によって審査期間にバラツキはあるように感じるが、特に問題があるとは思わない(全地域)。
- ・企業業績が回復し、審査し易くなっているのではないか(北海道、東北、関東、東海、北陸、近畿、中国、九州、福岡、沖縄)。
- ・原則、保証人を必要としないスタンスをとっているためか、審査に時間がかかっている(関東、東海、福岡)。

⑦ 金利

- ・量的緩和が解除されて以降、貸出金利が上昇傾向にある(北海道、近畿)。
- ・貸出金利は上昇傾向にあるものの特段の不満はない(全地域)。
- ・企業の財務内容やリスクに応じた金利設定が浸透しつつあり、妥当な水準である(全地域)。
- ・貸預の金利差には、総じて不満の声が多い(東北、関東、東海、近畿、中国、福岡)。
- ・優良企業とリスクが高い企業との間の格差が拡大傾向にある(全地域)。

⑧ その他

- ・企業では、金融機関への振込手数料が大きな負担となっている。金融機関の業績が改善しているため、顧客へ還元してもいいのではないか。銀行代理業務やコンビニATMの動きをみると、リレバンへの取組みやビジネスモデルの確立がより一層求められてくるだろう(東北、四国)。
- ・スコアリングを導入しており、経営者は自分のランクを教えてもらっている。先を見る経営者は既に固定金利で対応しており一部私募債の取組みも見られる。金利交渉力、事業計画等、企業によって格差が出てきている(関東)。
- ・複数の金融機関にまたがって借り入れている借入を一本にまとめるような制度がほしいという相談を中小企業から多く受けている(東海)。
- ・中小企業では、会計の精度に格差がみられる。税理士や公認会計士を通じたガバナンス強化が必要ではないか(北陸)。
- ・金融機関はリレバンに積極的に取り組んでいるが、債務者に計画性がない、或いは詳細な検討ができていないなどの理由で融資が困難となっているケースが見受けられるので、債務者の意識改革が必要である(近畿)。
- ・中小零細企業向け融資については、商工会等、地域に密着した指導機関を利用した企業評価を取り入れるべきである(中国)。
- ・保証協会が一律だった保証料について、企業をランク付けし、幅を持たせるとの話をしている。そのことが今後の中小企業への融資へどのような影響を及ぼすかを注視したいと考えている(九州)。